

第116回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和7年1月27日（月） 9：30－11：30
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
宇宙政策委員会
後藤委員長、青木委員、片岡委員、澤田委員、松尾委員
 - (2) 事務局
内閣府宇宙開発戦略推進事務局：
風木事務局長、渡邊審議官、猪俣参事官
 - (3) オブザーバー
宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長
 - (4) 関係省庁等
内閣官房内閣衛星情報センター：室伏管理部長
総務省国際戦略局：近藤審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）
総務省総合通信基盤局電波部：荻原部長
文部科学省大臣官房：橋爪審議官（研究開発局担当）
農林水産省農林水産技術会議事務局：東野研究総務官
経済産業省大臣官房：浦田審議官（製造産業局担当）
国土交通省大臣官房：中崎技術総括審議官
環境省地球環境局：土居局長
防衛省大臣官房：家護谷サイバーセキュリティ・情報化審議官
宇宙航空研究開発機構（JAXA）：石井副理事長
宇宙航空研究開発機構（JAXA）：石田宇宙戦略基金プロジェクトディレクター

4. 議事要旨

(1) 令和6年度宇宙関係予算案等について

宇宙事務局および各省より資料 1-1～1-9 に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○防衛省の衛星コンステレーションは、我が国の衛星産業基盤強化の点でも重要。商業宇宙能力を活用するためには、長期計画を立て、民間事業者の予見可能性を高める工夫が重要。できるだけ早期に、今後の能力強化や、機数増に向けた中長期的な計画を示していただきたい。

○衛星コンステレーションは、防衛省のみならず、内閣衛星情報センターや国土交通省など、政府全体で利用していくべき。反対に、情報収集衛星で取得した画像を、防衛省で利活用するといったこともあり得るのではないか。

○将来的な打上げ高頻度化のためには、射場の整備も重要である。

(2) 宇宙戦略基金実施方針（総務省計上分）の改定案について
総務省より資料2-1、2-2に基づき説明を行い、了承された。

(3) 宇宙戦略基金の進捗報告等について
JAXAより資料3-1に基づき、内閣府より3-2に基づき説明を行った。
委員からは以下のような意見があった。

○JAXAにおける丁寧な技術開発マネジメントの取組や検証を評価したい。

○事業の成果目標や結果については、雇用創出や予算の流れ、特許化件数、国際連携の創出、サプライチェーンの広がり等、様々な指標があり得る。成果をどうみせていくか、全体として青写真を持つべき。

○昨年、今年と補正予算で措置されているが、世界の状況を見るとまだまだ足りない。来年も含めてしっかりと投資を継続していくべき。世界との競争においては、例えば、海外のとある企業は、設立から短期間で既に100機以上のリモートセンシングの衛星を投入している。そうした中で、我が国として競争に負けて技術が枯れるということがあってはいけぬ。企業も予見可能性がないと投資ができないので一期、二期とつなげて加速できるようにしてほしい。

○公募に対する提案数を増やしていくために、今回提案を断念した企業にもヒアリングすべきではないか。非宇宙企業の参入障壁がどこにあるのか、そのあたりも分析すると良いのではないか。

○民間金融機関がこの分野に入りやすい土壌を作ることが大事。また経営陣への啓発活動もしっかりやるべき。

○分野の特性として、先端技術という面はあるが、テーマ設定で技術を絞りすぎたために、応募者が一者しかいない案件が発生している面もあるのではないか。第二期のテーマ設定に当たっては、詳細な制度設計について、JAXAと各府省の間でもよく意見交換をしてほしい。

○政府の基金に対する評価は様々あるが、宇宙戦略基金については、基金が持つ特性を高いレベルで機能させ、成果を出していくことが重要。JAXA、関係府省で緊密にコミュニケーションをとって成功に導いて欲しい。宇宙政策委員会としても継続的にサポートしていく。

○透明性の確保と同時に、熾烈な国際競争を考えると迅速に事業を開始することも重要。しっかり進めてほしい。

(4) 宇宙における周波数の利用に関する総務省の取組について
総務省より資料4に基づき説明を行った。
委員からは以下のような意見があった。

○非常に重要な取組であると認識しており、今後いっそうの拡大を期待する。

以上